

マイペースで根気強く

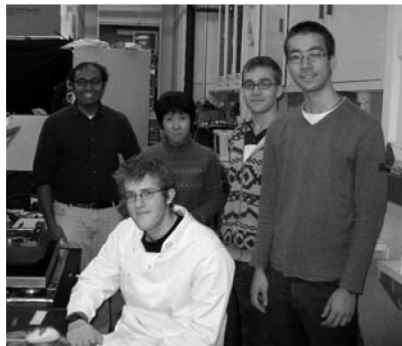
「ほわっとしていて
優しそっだが芯は強い」と言われることがある。研究者には褒め言葉ではないが、広い分野に興味を持ち、周囲の影響を受けながら自然体で研究人生を歩んできた自分を表現しているように思う。

学生時代に研究テーマとしていた化学センサーを、ネットワーク化して社会に役立てたいと入社したものの、脳内情報伝達に興味を持ち、それをデバイス化するための研究に取り組んでいる。やりたいことはマイペースに根気強くやり遂げるた

凛としていきる

理系女性の挑戦

活躍し続けられる環境を



ちで、単身赴任と出産
・育児が重なり、子連れ・親同伴の宿泊出張を何度も経験した。ちやうど各学会が会期中に託児室を開設し始めた時期で大変助かったのを覚えている。

一つ一つの転機が共同研究を開始したオックス

フォード大への赴任だった。初めての海外研究者を指導しながら1年間でも成果を出すのが役割であった。生活も研究もすべてが日本とは異なる、困惑

しつつも家族に助けられ適応しながら、なんとか成果を論文化できた。ここで学んだ多様性の面白さは、その後、多くの海外研究者・実習

共同研究者たちとオックスフォード大学にて

生と仕事をするペースになっっている。2度目の産休明けに研究管理業務へ異動したのも大きな挑戦だった。上司と相談の上だったが、研究の調整側に回ることでも社内でのくみを理解できその後とても役立っている。社内では「研究管理業務は激務で家庭を持つ女性には務まらない」という配慮のようなものがあつたが、今では多くの女性研究者がその業務を経験し、男性と同様のキャリアパスを歩んでいる。

現在、研究と並行し

て担当しているのはウエアラブル生体電極の開発である。今では東レと共同開発している「hitoe」である

が、当時は所内数人のみが開発に携わっていた。短期間の開発の中で、日常生活での不整脈や不眠を検出できる可能性があることが分かってきた。ICITを使った早期診断ができれば入社時の思いにつながる。

若い世代の女性研究者は、しっかりと知識に基づき高い能力を発揮している人が多く、職場での産休・育児等の制度は整ってきたが、今後は女性研究者・技術者がより活躍

し続けられる環境をつくるのが課題であろう。

企画協力・日本女性技術者フォーラム(JWEF)

(火曜日に掲載)



NTT物性科学基礎研究所 主任研究員 河西 奈保子

＜プロフィール＞96年東北大院工学研究科応用化学専攻修了、NTT入社。ナノバイオ研究に従事。06年オックスフォード大客員研究員。中央大非常勤講師。博士(工学)